

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年10月14日

枚方市立桜丘北小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童（生徒）の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

<学力調査結果の概要>

○国語について

→国語では、**基本的な読み書きの力と、文章の概要を的確に捉える読解力**がしっかりと定着しています。

• **漢字の習得と活用**: 学年で習う漢字を文脈の中で正しく使う問題（問題2四ア）では、**75.6%**という高い正答率を記録しました。これは、日々の漢字学習の積み重ねが、単なる暗記にとどまらず「使える知識」として定着していることを示しています。

• **内容把握の力**: 文章を読み、登場人物の経験とそれに伴う気付きを捉える問題（問題3一）でも、同じく**75.6%**の高い正答率でした。文章の中心的内容を読み解くという、読解の根幹となる力が育っている証拠です。

これらの力は、より複雑な文章を読んだり、自分の考えを表現したりするための重要な土台となります。

○算数【数学】について

→【算数】図形や測定における、正確な知識と技能の問題の優位性があります。

算数では、特に**図形や測定といった、具体的な操作や視覚的な理解が求められる領域で、非常に優れた成果**が見られます。

• **図形の性質の深い理解**: 台形の定義を理解して図形を選ぶ問題（問題3(4)）では、****正答率が90.2%****に達しました。これは全国平均（81.3%）を大きく上回る素晴らしい結果であり、図形の基本的な性質が深く理解されていることを示しています。

• **正確な測定技能**: はかりの目盛りを読む問題（問題2(3)）でも**78.0%**と高い正答率を記録しており、日常生活にもつながる具体的な技能が確実に身につけていることがわかります。

これらの具体的な事柄に対する強みは、児童の学習への自信につながり、より抽象的な問題に取り組む意欲を引き出す上で大きなプラスとなります。

○理科について

→【理科】知識の活用と、科学的な思考・表現力のよさ。

理科は、基礎知識の定着に課題がある一方で、**観察や実験の結果に基づいて論理的に考え、表現する力に大きな強み**が見られます。

• **科学的な探究力**: 実験方法の妥当性を検討して表現する問題（問題1(1)）や、実験結果を根拠に結論の理由を記述する問題（問題1(3)）では、**ともに70.7%**という高い正答率を示しました。これは、単に知識を知っているだけでなく、その知識を使って科学的に考える「探究する力」が育っていることを示しています。

• **思考・判断・表現の観点**: 評価観点別に見ると、「知識・技能」（38.7%）よりも「思考・判断・表現」（48.8%）の平均正答率が高いという特徴があります。これは、課題に対して粘り強く考え、自分なりに結論を導き出そうとする学習姿勢の表れと捉えることができます。

この考える力は、理科など全ての教科の学習を深化させる上で非常に重要な能力です。今後はこの強みを活かしつつ、土台となる知識を充実させていくことで、学力全体の大きな伸びが期待できます。

国語科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

問題の概要（見出し）

1. 問題2四ア「【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す（このみ）」正答率: 75.6%

相手のアこのみに合わせて、もようを選び、おくることができません。

イあついに、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。

考察

この問題は、ひらがなで書かれた言葉を文脈に合った漢字に直す、基礎的な知識・技能を問うものです。正答率が75.6%と高いことから、学年別漢字配当表に示されているような基本的な漢字を、単に覚えるだけでなく、**文章の中で適切に使えるレベルで定着している児童が多い**ことがわかります。特に、ちらしという具体的な場面設定の中で漢字を用いる力が身につけている点は、日常生活と学習を結びつけられている証拠であり、大きな成果と言えます。これは、日々の漢字学習の積み重ねが実を結んだ結果と考えられます。

問題の概要（見出し）

問題3一「【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する」正答率: 75.6%

3

木村さんの経験では、言葉の変化について学ぶために、「資料1」を読みました。そして、「資料1」を読んで「一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめること」をしました。「資料1」をよく読んであるの問いに答えましょう。

〔資料1〕

(文化庁国語課「文化庁国語課の動向いしやすい日本語」による)

(文化庁国語課「文化庁国語課の動向いしやすい日本語」による)

※1 「規範」……判断したり行動したりするときの手本。

※2 「短絡」……よく考えもせずに、ものごとを簡単に結びつけてしまうこと。

※3 「文化庁」……文化や芸術を広める仕事や、文化財を守る仕事などをする。国の機関。

考察

この問題は、文章に書かれている出来事の順序などを考えながら、内容の大体を捉える力を測るものです。正答率が75.6%と高いことから、**物語や説明文の内容を読み解き、中心となる登場人物がどのような経験を通して何に気付いたのか、その変化を把握する基本的な読解力が育っている**ことが示されています。文章の表面的な情報を追うだけでなく、登場人物の心情の変化という一歩踏み込んだ内容を理解できている点は、今後のより複雑な読解への土台となる重要な力であり、高く評価できます。

算数(数学)科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

問題の概要(見出し)

1. 問題3(4)「方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ」

正答率: 90.2%

(4) わかなさんたちは、図3のような五角形アイウエオの面積の求め方を考えています。

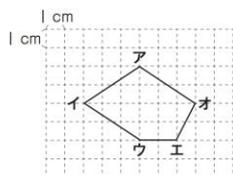


図3

わかなさんたちは、三角形や四角形の面積の求め方が使えるように、図3の五角形アイウエオを、2つの図形に分けようとしています。



私は、直線イオをひいて2つの図形に分けようと思います。



私は、直線ウオをひいて2つの図形に分けようと思います。

わかなさんとゆうたさんのどちらの分け方でも、五角形アイウエオの面積を求めることができます。

考察

この問題は、台形の意味や性質を正しく理解しているかを問うものです。正答率が90.2%と極めて高く、全国平均(81.3%)を約9ポイントも上回っている点は特筆すべき成果です。これは、「1組の向かいあう辺が平行な四角形」という台形の定義が、多くの児童に正確に、かつ深く理解されていることを示しています。単なる暗記ではなく、複数の図形の中から条件に合うものを選び出すという操作を通して、知識を正しく適用できていることがわかります。図形領域の基礎がしっかりと固まっていると言えるでしょう。

問題の概要(見出し)

2. 問題2(3)「はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む」

正答率: 78.0%

(3) あさひさんたちは、さらに別の容器のハンドソープの重さを調べています。そのハンドソープを容器ごとはかりにのせると、下の図のようになりました。はかりの針が指している目もりは何gですか。答えを書きましょう。



考察

この問題は、日常生活にも関連の深い、はかりの目盛りを読む技能を測るものです。貴校の正答率は78.0%で、全国平均(79.3%)とほぼ同水準の高い結果でした。これは、1目盛りが何gを表すのかを理解し、指針が示す値を正確に読み取るという、測定における基本的な技能が確実に身につけていることを示しています。具体的な操作を伴う学習内容については、多くの児童が習得できていると考えられ、体験的な学習活動の成果が表れていると推察されます。

理科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

問題の概要（見出し）

1. 問題1(1)「水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く」正答率: 70.7%

あかりさんたちは【問題】を、大きいつぼと小さいつぼの赤玉土で確かめる【方法】について考えました。

【方法】

- ① どう明なプラスチックでできた2つの同じコップに次のことをする。
 - ・4つの穴を同じようにあける。
 - ・同じ高さの線を画のように引く。
 これらを穴あきのコップA、Bとする。
- ② 土をふくろから取り出し、次のように入れる。
 - ・コップAは大きいつぼの赤玉土
 - ・コップBは小さいつぼの赤玉土
- ③ コップAに水をすばやく入れ、時間をかり始め、水の面が同じ高さの線に下がるまでの時間をはかる。コップBも同じようにして時間をはかる。
- ④ 受け皿にたまった水、コップの土や水をすべて出し、②と③を全部で3回行う。

(1) 上の【方法】で、コップAの条件を下の通りにしたとき、コップBの条件（赤玉土の量と水の量）は、どのようにすればよいでしょうか。下の（ア）と（イ）の中にあてはまる数字を書きましょう。

| | つぼの大きさ | 赤玉土の量 | 水の量 |
|---------|--------|--------|--------|
| コップAの条件 | 大きい | 300 mL | 250 mL |
| コップBの条件 | 小さい | （ア） mL | （イ） mL |

考察

この問題は、結論を導き出すために、用いた観察・実験の方法が適切であったかを検討し、表現する力を問うものです。正答率が70.7%と高いことから、**児童が実験の目的を理解した上で、その手続きの妥当性を批判的に吟味する力が育っていることがわかります。**単に実験を行うだけでなく、「この方法で本当に調べたいことがわかるのか？」という科学的な思考の入り口に立っていることを示しており、思考力・表現力の観点から非常に価値のある成果です。

問題の概要（見出し）

問題1(3)「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く」正答率: 70.7%

(3) 大きいつぼと小さいつぼを比べたときの【方法】と同じように、中くらいのつぼの赤玉土で実験すると、水がしみこむ時間はどれぐらいになると考えられますか。

【結果】をもとにして、【考えられる時間】を下の 1 から 3 までの中から1つ、【考えられる時間を選んだ理由】を下の 4 から 6 までの中から1つ、それぞれ選んで、その番号を書きましょう。

【考えられる時間】

- 1 3秒より短い
- 2 5秒から9秒までの間
- 3 11秒より長い

【考えられる時間を選んだ理由】

- 4 中くらいのつぼの赤玉土は、大きいつぼの赤玉土より、しみこむのに時間がかからないから。
- 5 中くらいのつぼの赤玉土は、小さいつぼの赤玉土より、しみこむのに時間がかかるから。
- 6 中くらいのつぼの赤玉土は、大きいつぼの赤玉土より、しみこむのに時間がかかり、小さいつぼの赤玉土より、しみこむのに時間がかからないから。

考察

この問題は、提示された実験結果を根拠として、なぜそのような結論になるのか、その理由を表現する力を測るものです。こちらでも70.7%と高い正答率を記録しており、**観察・実験の結果という客観的な事実（データ）に基づいて、自らの考えを論理的に説明する力が身につけていることを示しています。**これは科学的な探究活動の根幹をなす重要な能力です。知識の定着には課題があるものの、こうした思考力・表現力において高い成果が見られたことは、今後の学力向上に向けた大きな強みとなります。

質問紙調査の結果

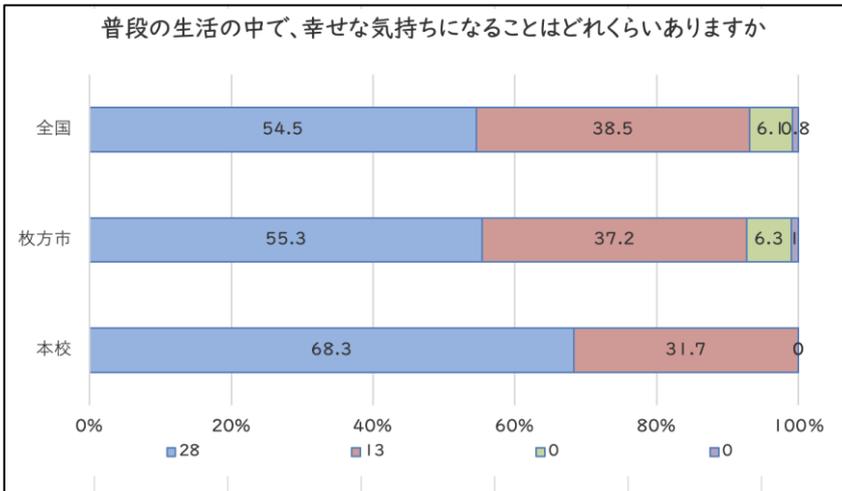
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果が見られた項目】

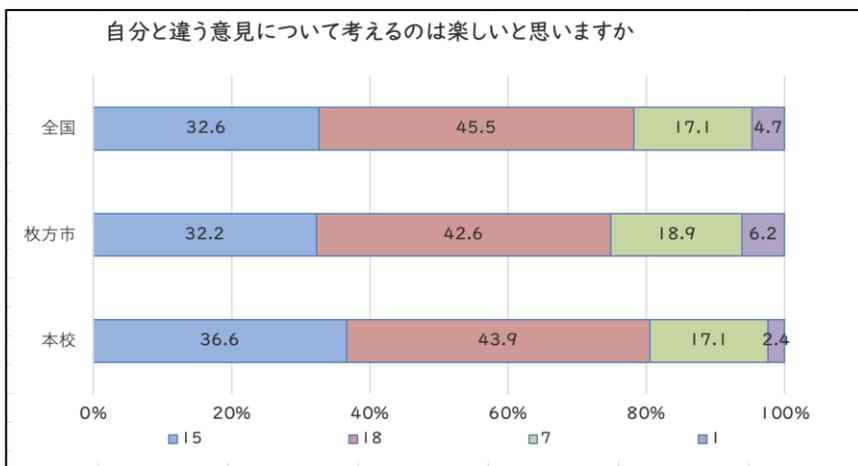
質問内容 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



(考察)

この結果は、多くの児童が学校や家庭での日々の生活に満足し、精神的な充足感を得られていることを示しています。教員との良好な関係や友達との豊かな交流、そしてご家庭での温かい関わりが、お子様たちの心の安定につながり、高い幸福感の基盤となっているものと推察されます。幸せを実感できる心の状態は、何事にも意欲的に取り組むためのエネルギーとなり、健やかな成長を支える上で最も大切な要素の一つです。

質問内容 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか



(考察)

この結果は、本校の児童が自分と異なる意見や多様な価値観に対して、拒否するのではなく、知的な好奇心をもって前向きに受け止めている姿勢を示しています。日々の授業におけるグループでの話し合い活動などを通じて、友達の考えに耳を傾け、互いの意見を尊重し合う経験が、このような柔軟な思考力を育てていると考えられます。多様性がますます重要となるこれからの社会において、他者の意見を楽しみながら自分の考えを深めていける力は、非常に大きな強みとなります。

分析結果を踏まえて取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

次の項目に重点を置いて取り組みます。

1. 知識のインプットとアウトプットを行う授業

基礎的な知識・技能を習得する時間を確保し、その直後に、その知識を使って解く課題（記述問題や応用問題）に取り組ませるなど、**知識のインプットとアウトプットをセットで行う授業**に取り組みます。

2. 思考のプロセスを「言葉にする・書き出す」活動の充実

自分の考えを論理的に説明する経験を増やす必要があると考えられます。ペアやグループで「なぜその答えになるのか」を説明し合う活動や、解答に至るまでの思考過程をノートなどに書き出す活動などを取り入れ、表現力を育成します。

3. 体験活動と知識の関連付け

植物や電気の単元など、知識の定着に課題がある領域では、実物の観察や実験といった体験活動を重視します。その際、体験で終わらせず、そこで得た発見や気づきを教科書の記述や図と結びつけ、**体験知と知識を相互に関連付けながら理解を深める**ことを目指します。

(2) 家庭学習について

ご家庭でも次のようなことに意識してもらえたらと考えております。

1. 日常生活の中での「なぜ?」「どうして?」という対話

買い物中に商品の表示を見ながら「どうして値段が違うんだろう?」、料理を手伝いながら「なぜ火が通ると色が変わるんだろう?」など、**身の回りの事象について親子で疑問を持ち、一緒に考えたり調べたりする習慣**が、全ての教科の土台となる思考力や探究心を育みます。

2. 読書後の感想の共有

本を読んだ後に、あらすじを説明してもらったり、「一番面白かったところは?」「もし君が主人公だったらどうする?」といった問いかけをしたりすることで、**文章の内容を整理し、自分の考えを言葉にする良い練習**になります。これは国語の記述力向上に直結します。

3. 学習内容について「説明してもらおう」

「今日、学校で何を習ったの?」「その問題、お父さん（お母さん）にもわかるように説明してくれる?」と、子どもを「小さな先生」にする時間を作ってみましょう。**他者に説明することで、自分の理解が整理され、曖昧だった部分が明確になります**。これは特に、算数の考え方を説明する力や、理科の知識の定着に効果的です。